アジア太平洋地区の工学教育における AEESEAPの役割

Role of AEESEAP in Asia and Pacific

武 居 昌 宏^{※1}

Masahiro TAKEI

2011年9月16日に、中国北京にて、Association for Engineering Education in Southeast and East Asia and the Pacific (AEESEAP, 東南アジア・東アジア・太平洋地区工学教育協会)の総会があり、2012年1月より、会長を仰せつかることとなりました。日本工学教育協会は、AEESEAPの幹事協会となり、事務業務を引き受け、2014年12月までの3年間活動を行います。どうかよろしくお願い致します。

まずはじめに、AEESEAPの歴史を簡単にご説明します。1970年3月にクアラルンプールで、UNESCO (United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization, 国際連合教育科学文化機関)主催のアジア工学教育への新しいアプローチに関する地域セミナーが開催されました。この会議にて、東南アジアの地域の高等工学教育のために、その国際組織の設立が必要不可欠であるとの結論に達しました。

その後、UNESCOの下部組織である世界工学団体連盟 (WFEO, World Federation of Engineering Organizations)は、その組織を具体化したものとして、AEESEA (Association for Engineering Education in SouthEast Asia, 東南アジアの工学教育協会)の設立に賛同し、1973年10月に、マニラのフィリピン大学で開催された工学教育に関するUNESCO地域のセミナーにて、第1回のAEESEAの理事会を開催しました。こうしてAEESEAが誕生したわけですが、当初は、AEESEA “P”ではなくてAEESEAであり、最後の“P”がなく、東南アジアの国々における工学教育協会でした。その後、2001年に韓国ソウルで開催された理事会で、この組織をAEESEAPと改編し、東南アジアだけではなく、日本を含めた東アジアと太平洋の国々の加盟を認めました。その後、20の項目から構成されるAEESEAPの憲法が制定改正され、年一度の理事会・ワークショップを開催し、今日まで38年間の間、

発展し続けています。

現在、AEESEAPに加盟している国は、オーストラリア・ニュージーランド (2か国で1つの選挙権)、ブルネイ・ダルサラーム、中国、フィジー、インドネシア、日本、韓国、ラオス、マレーシア、パプアニューギニア、フィリピン、シンガポール、タイ、および、ベトナムの合計15の選挙権をもつボーディングメンバと、選挙権のないオーディナリーメンバであるアメリカ合衆国から構成されています。日本国内会員は77の工学系大学や高等専門学校を中心とする高等教育機関です。

AEESEAPの任務は、主に次の8つに集約され、それらは、1) 国際的工学教育プログラムへの参加を促進すること、2) 情報や人事交流により、工学教育の問題点を先取りし、解決策を見出すこと、3) 工学教育プログラムの質向上について、サービスおよび助言を行うこと、4) 工学教育の普及を目指し、新しく設立される研究機関などに対して助言すること、5) 技術者、技能者、および、教育者に対して、継続教育や職能開発を促進すること、6) 国内・国際的に、産業界および教育界との間の協力関係を促進すること、7) 各国における既存の技術者協会や工学教育者協会に対してし、工学教育の質の向上を支援すること、8) 工学教育に関する組織が存在しない、国や地域において、組織の設立を支援すること、です。

8月に行われる日工教第60回年次大会では、国際セッションをAEESEAPとの共催で行い、大会3日目には、ボーディングメンバによる報告と理事会を開催します。

東南アジア・東アジア・太平洋地区の工学教育の発展のために、これらのAEESEAPの任務を遂行していきますので、皆様のご支援をよろしくお願い致します。

2012年4月28日受付

※1 日本工学教育協会 国際委員長

AEESEAP 会長

千葉大学大学院工学研究科人工システム科学専攻